

効果確認訓練

佐賀消防署消防2課
高度救助隊



活動フロー

- ①情報収集・状況確認・任務分担
- ②接触及び評価
- ③救出システム作成
- ④救出開始～完了



①情報収集・状況確認・任務分担

- 現場到着後、隊長は、関係者から情報等（要救助者情報、活動危険）の聴取を行います。他の隊員は資器材の準備・確認を行います。
- 情報収集完了後、救出方針、任務分担、徹底事項を隊員と共有し活動を開始します。



②接触及び評価

■第1進入隊員は早期に要救助者へ接触・観察を行い、救急処置、要救助者が複数の場合の優先順位、収容資器材を判断し隊長へ報告します。併せて活動場所の状況等も確認し報告を行います。

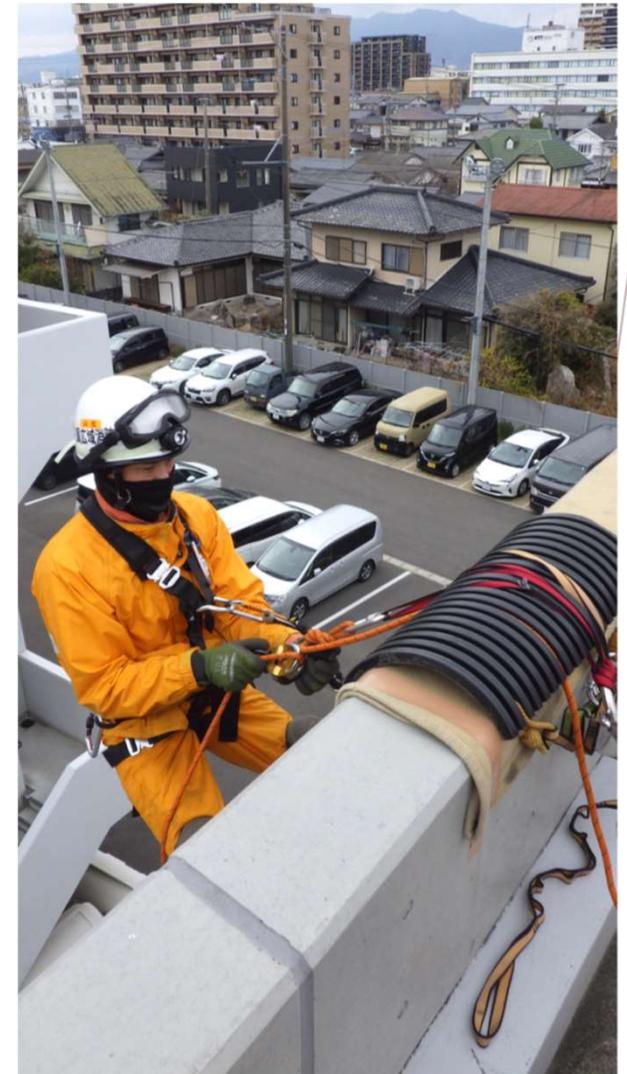
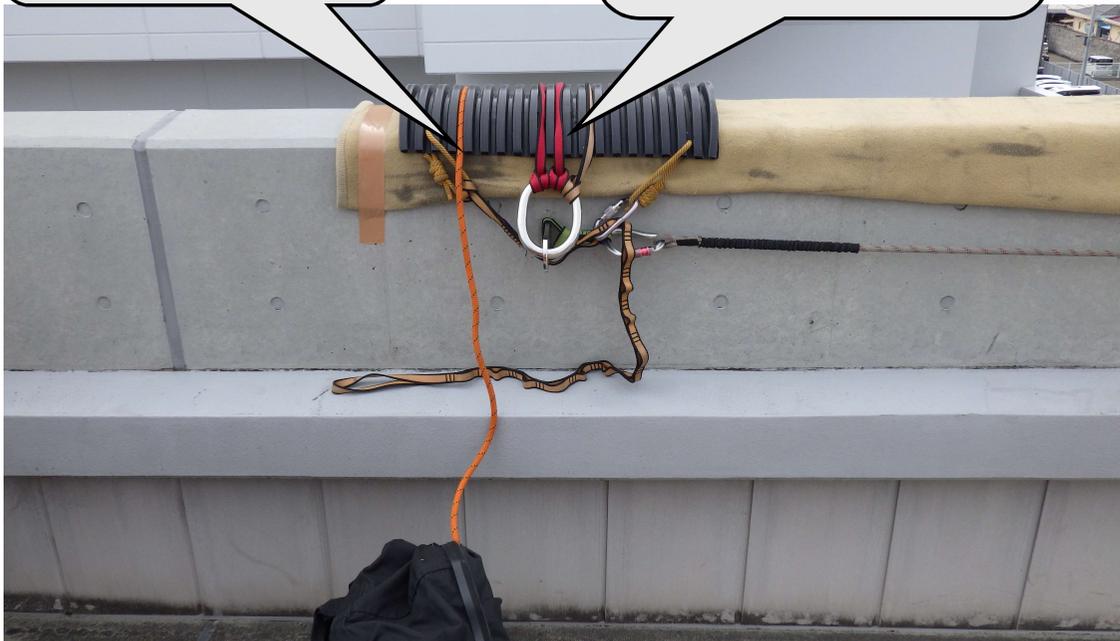
※進入隊員は救出システムとは別のロープを使用し降下します。進入前は、隊員によるセルフチェック及び他の隊員によるダブルチェックも必ず行います。

※進入時のロープの切断段防止措置（エッジ保護）は毛布及びコルゲート管を使用します。

進入隊員用ロープ

テープスリング（赤）
進入隊員用ロープ接続用

テープスリング（黄）
壁面移行時の足掛かり用

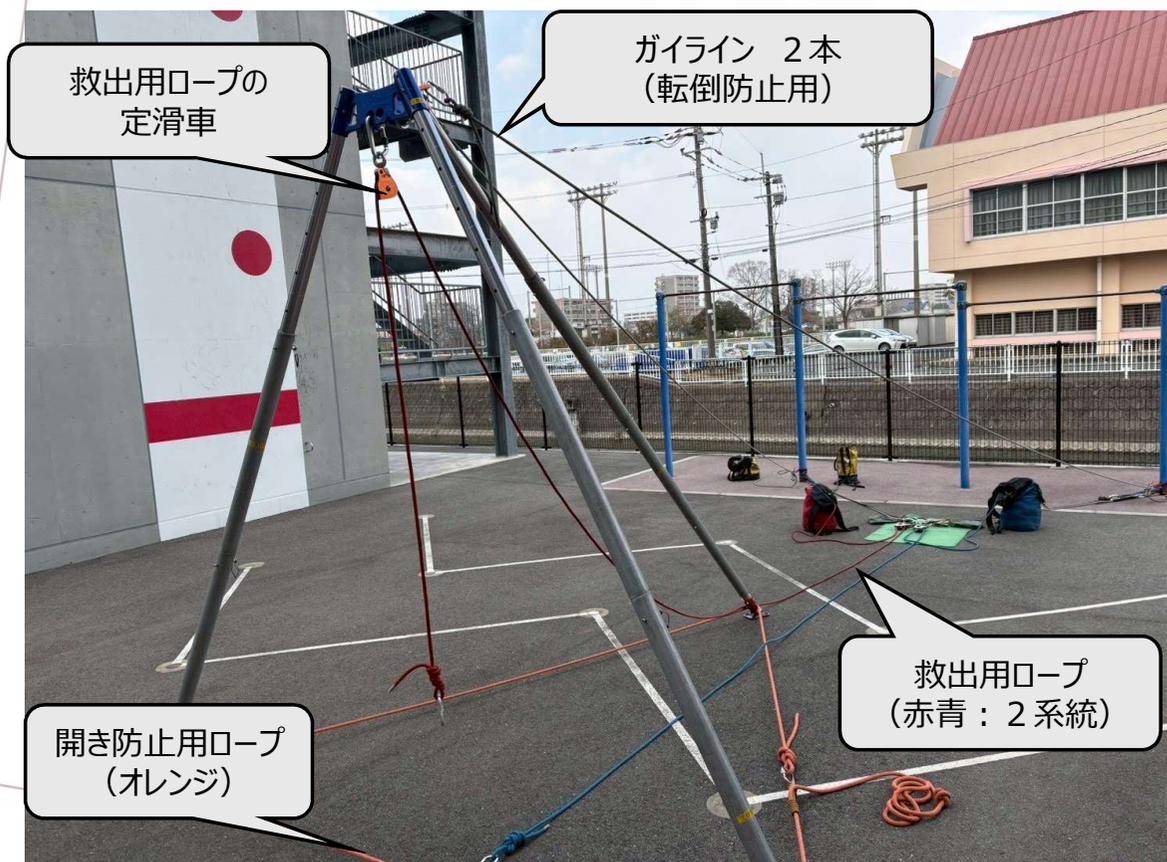


③救助システム作成

救出システム

- ◆アリゾナボートックス
- ◆アンカー（支点）
- ◆倍力システム

アリゾナボーテックス



○メリット

上部支点が無い場所でも支点を設定できる
アルミ製で分割可能なため梯子よりも持ち運び
が容易

△注意点

分力、合力の理解が必要
熟練度に応じ設定に時間を要す

アンカー（支点）



ロープレスキューシステムの一番の肝となる部分であり、このアンカーがズれる・崩壊するといったことがあれば、要救助者や隊員を大きな危険にさらすことになります。

本施設のアンカーは強固な支点ではあるものの、要救助者がいる位置と合わず使いづらいことから2カ所のアンカーから2系統でマルチポイントアンカーを作成しています。

扱う荷重の大きさにより2系統を取るということではなく、1系統でも強度は十分であるが絶対に落とさないバックアップとして2系統で支点の作成を隊内の共通認識として行っています。



倍力システム



引き上げる必要がある救助現場では、引き上げる距離、隊員の数、地形、活動場所、要救助者の状態、重さ等を総合的に判断しシステムを作成します。

当然隊員が多ければ倍力システムを作成をしないことも可能です。



④救出開始～完了

救出システムと要救助者がロープで繋がり、ダブルチェック完了後、隊長の救出開始の合図により救出を開始します。

救出時に要救助者が壁面に擦れることがないように第2進入隊員を配置します。要救助者の容体によっては、アテンド救出も考慮します。

ロープを引く隊員は一気に引くのではなく、テンションを感じながら、ロープを引きます。



要救助者を救出中、壁面に擦れないように第2進入隊員を配置

ロープ切断防止措置

訓練を通して…

- 隊長のみの考え方や意見で救出プランや手技手法を決定していくのではなく、救助隊全員で様々な意見を出し合い、活動を展開できるようになった。
- 限られた資機材の中で様々な事案に対応すべく、柔軟な考え方が隊全体で身についた。
- どんな些細なことでも言葉に出すことで、隊員間での共通認識が構築しやすくなった。

今後も、複雑多様化する災害に安全・迅速かつ効率的に対応するため、現状に満足することなく、救助技術の向上に継続して取り組んでいきます。